



- 1 学校の教育目標 自己理解・自己錬磨・自己表出
- 2 経営の基本方針 ○かけ声・笑い声・歌声の響き合う学校 ○集団が育ち、個が生きる学校 ○地域と共に育ち、信頼される学校 ○目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」

※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方針(○考察●改善方針)	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	いじめや非行への対応	いじめや非行を許さない毅然とした態度で生徒指導に取り組んだ。	3.3	3.5	3.1	○ いじめの認知件数がまだ少なく感じる。生徒は無意識でひどい言葉を使ってしまい、言われた方もそのことに気付いていないという場面は数多くある。今後も、啓発や小さなことであっても見逃さず指導を継続していく。	・ SNSによるいじめが社会に影を落としている。今後も警察署等と連携し、学校でも指導を継続していく必要がある。
	不登校への対応	不登校解消に努めるとともに、不登校生に対して適切な指導や支援を行った。	3.1			○ 様々な配慮や支援を行っても、教室で周囲のペースに合わせて生活することが困難な生徒はいる。今後タブレットPCの使用環境を整えるなどして、学校に来なくても希望に近い学習ができるような方策を考えていく必要がある。	・ 家庭や地域に関することで民生委員も力になれる部分があるかもしれない。声をかけてもらいたい。
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や決まりの遵守など基本的な生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.2	3.6	3.2	● 「挨拶」に関して、生徒の中からも声の小ささや誰に対してもできることが課題であるという反省点が挙がった。校内だけでなく、地域の方々に対してなど校外でも自然と元気に挨拶ができるよう指導していく。	・ 登下校の挨拶で返事がなかったり声小さかったりしている。元気な挨拶を習慣化し、心の挨拶より声を出せるように。
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.2			● SNS上のトラブルは表面化しているものは少ないが、学校で把握することが難しいからこそ日頃から危険性や、グループラインの使い方などの望ましい行動や友達とのやりとりについて啓発や指導を継続していく。	・ 「ふれあいタイム」などの時間を利用して学級や学年の枠を超えて様々な先生が生徒と向き合っている。今後も継続してほしい。
	相談体制の充実	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応に努めた。	3.4	3.6	3.0	● 教育相談「ふれあいタイム」、「あゆみ」による日記指導を通じて生徒に寄り添い、安心して学校生活を送れるよう取り組んでいく。	・ 家庭での親子のコミュニケーションがもっと取れるようになっていけば、さらに保護者に学校の様子を分かってもらえるのではないかな。
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.2	3.2	2.8	● 国語科による漢字、数学科による計算、英語科による単語などについてのドリルを学級、学年をこえて実施するとともに、まとめの時期にはドリルコンテストを行うなど基礎基本の定着に向けての目標を持たせる。	・ 全国学力診断テストのアンケート結果から、家庭学習の時間の少なさが学力定着の課題といえる。
	家庭学習の充実	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	2.9	3.0	2.8	○ 家庭学習の充実について教職員・保護者の評価が低いのは、生徒個々の家庭学習に対する意識の差が原因ではないかと考えられる。家庭での基本的な学習の進め方の指導や習慣化するための方策を考えていく必要がある。	・ 全国学力診断テストの「教室で学ぶことが楽しい」が「学習することは好きではない」という結果から、もう一つ「できた」という楽しさを教えるべき。
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	2.9	3.3		○ 学校行事の縮小化により体験的な活動が減少していく中、タブレットPC等を利用して工夫して様々な行事を実施してきた。生徒も自分たちでできることを考え、生徒会を中心として意欲的に活動に取り組んできた。	・ コロナ禍のためできることは限られたものとなったと思うが、生徒が主体的に活動し、生徒自身もそれを高く評価できている。
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	2.9	3.3	2.7	● 「キャリア教育」については学年に応じた学習を行っている。保護者に対しても、進路に関する文書(「進路だより」など)は、ホームページやまちコミなどで配信して情報が伝わるようにする。	・ 進路指導の評価が昨年度までと比較してかなり向上してきている。今後も家庭での会話をさらに充実させていくべき。
	学び合う授業の創造	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	3.0	3.4		● コロナ禍でなかなかできなかったが生徒同士の教え合いの時間を実施可能な状況になればできるかぎり取っていく。また、実施が困難な場合はタブレットPC等を工夫して活用していく。	・ 学び合いの場作りと基礎・基本を定着させるための学習の場面作りが両立できるようにお願いしたい。
豊かな心・健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようと努めた。	3.1	3.4	3.0	○ 道徳教育は長い時間かけてやっていくものであり、すぐに結果が出ないところもある。今後も引き続き、生徒一人一人の道徳的実践力が高められるようじっくりと取り組んでいく。	・ 人権・同和教育も含めて道徳教育が充実しており、学んだことが実践できているように引き続き支援をお願いしたい。
	仲間づくり・集団づくり	学校生活のアンケートやhyper-QUの結果を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	3.0	3.5	3.1	○ 毎月実施している「学校生活アンケート」やhyper-QUの結果をもとに、できるだけ早い段階で教育相談等を実施し、情報を集めて仲間作りや集団作りに生かしている。	・ よい集団である。登下校の様子を見ても、一人でという生徒は少ない。引き続きよりよい集団づくりを目指してほしい。
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.0	3.4	2.9	○ 部活動や校外での活動等を通じて日常的に体を動かして元気に生活できている。これからも心身ともに健康的な生活を心がけさせる。	・ 体育祭前やマラソン大会前に河川沿いを走っている生徒を見かけた。1つの目的として体を動かすことにつながっている。
	人権・同和教育の推進	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.2	3.7		○ 同和問題をはじめとする様々な人権問題について、系統的な指導計画を立てて学習を進めてきている。また、教職員の人権意識のレベルアップを図るため、地域の関係機関と連携しながら研修を積み重ねてきた。	・ 郷土の松浪彦四郎氏を教材に取り上げるなど、教職員の研修と生徒への人権意識の高揚が進められている。
	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.2	3.4		● 昨年度の課題であった自尊感情の高揚については、効果的な褒める指導を継続し、社会に出たときの「生きる力」を身に付けさせる。また、部活動や学校行事等日々の活動において自尊心を高める活動を取り入れる。	・ 長所も短所も含めて自分がかげがえのない存在だと感じられるような気持ちをこれからも育ててほしい。
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	2.7	3.5	3.1	○ 新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策等施しながらの短い時間の中での活動となったが、生徒は意欲的に取り組めた。また、夏休み中は体育館の工事のため地域の運動施設や小学校の協力を得て活動できた。	・ 部活動の時間はこれまでよりも少なくなってきた。その分、部活動の目的をしっかりと周知して行うべきである。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.1	3.5	2.9	● サポートスタッフを含めた教職員全員がチームとなって生徒に寄り添い、個に応じた支援をしていくよう取り組んでいく。また、関係機関とも連携し、先を見据えた指導に生かす。	・ 中学校の雰囲気良く、生徒たちが落ち着いた環境の中で学校生活を送れていることに感謝したい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	3.0	3.6	3.1	● 自転車の安全運転についてやや意識が低いところが見られる。登下校指導を定期的に行うとともに、自転車通学生について安全指導を行う。	・ 通学路の安全点検を実施している。川上小学校前、グリーンタウン出口は継続して見守っていきたい。
	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	2.7	3.6	2.9	● 「クリーンかわうち」について、全体の意識が薄らいでくる時期にさしかかっている。今一度その活動の意義を理解するための時間を設け、今後も教職員と生徒が本来の目的に迫る行事になるよう取り組んで行く。	・ 避難のマイタイムラインを作ったり、防災グッズについて学んだりする防災教育を地域と連携して行ってみたい。
	安全・安心な環境づくり	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	3.0		3.1	○ 昨年度の反省点から、防災教育についての本校の取り組みについて、ホームページ等による紹介により保護者の方々にも広く知っていただけるようになった。	・ 「クリーンかわうち」について、自分が避難することになる場所に足を運び、環境を整備することはとてもよいことである。
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.3	3.6	3.1	● 研修を進め、各学年や部活動などでも担当者に関わらずホームページをアップできるようにし、さらに幅広く学校の様子を発信していきようとする。	・ 地域でも、公民館に啓発ポスターの掲示や人材登録用紙、回収箱等を設置し、より多くの人の目にとまるように工夫していきたい。
	地域教材の有効活用	地域の人材や施設・自然などを取り入れた授業や活動を行った。	2.8	3.4	2.8	○ コロナ禍のため地域の方々に教育活動に携わっていただく機会が少なかった。地域協働活動支援コーディネーターと協力し、学校活動支援サポーター募集のシステムを作り、今後の活動について準備を進めていく。	・ 今年度立ち上げた人材登録システムについて、誰でも簡単にできるようにパソコンや携帯端末からの登録も可能なものとなった。今後活用できるとよい。
特色ある学校づくり	ボランティア活動の充実	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	2.9	3.1	2.8	○ 現在コロナ禍のためボランティア活動をする機会が少なく、やや評価が低かったと思われる。今後もエコキャップやアルミ缶回収運動など小さなボランティア活動から意識を高めながら進めていく。	・ 少しずつではあるがコロナ前の生活に戻つつある。生徒も地域に出向きアルミ缶回収等のボランティア活動を再開できている。
	目指す生徒像の意識の定着	目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」に対する意識を定着させるための、工夫や支援を行った。	3.0	3.5	3.0	○ 伝統として本校の目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒の育成」が生徒、教職員、保護者の中に定着してきた。	・ 生徒の口から自然に「気づき、考え、行動する」が聞かれるようになってきた。生徒がよいと思ったことが行動に移せる支援を。
施設・設備の充実	ICTの有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.0	3.5	2.9	○ 1人1台のタブレットPCが配備され、ICT教育の推進が一段と進んでいる。教員の研修も自主的な学習会なども行っており、今後も研修を進め、情報を共有できるように進めていく。	・ 操作の難しいところはICT支援員とも連携しながら学習効果を上げていけるように工夫を。
	施設・設備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.1	3.6	3.3	● 毎月安全点検を実施するとともに、計画的な備品の廃棄を行い、安全・安心な教育環境の整備に努める。	・ 各教室の背面掲示や廊下、階段の掲示板、トイレのスリッパなどの場所もきちんと整頓されている。